

学級活動指導案

令和5年12月8日(金) 第5校時 5年〇組教室

授業の視点

Jamboard を用いて、友だちの意見を共有し、班で話合う活動は、児童がいじめをなくすためにはどうしたらいいか考え、意思決定をするための手立てとして有効であったか。

1. 題材名 「いじめをなくすためには、どうしたらいいか考えよう」〔学指要領：(2)イ〕

2. 題材の目標

いじめについての正しい知識を身に付け、これまでの生活経験を活かしたいじめ防止に向けた取組についての話し合い活動を行い、意思決定することができるようにする。

	資質・能力
知識及び技能	・学級や学校において互いのよさを見付け、違いを尊重し合い、仲よくしたり信頼し合ったりして生活することのよさや大切さを理解し、互いの個性を尊重し合う人間関係を形成することができるようにする。
思考力、判断力、表現力等	・学級や学校の生活をよりよくするための課題を見い出し、解決するために話し合い、多様な意見を生かし、協働して実践することができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	・友だちと関わる過程を通して自己理解を深め、互いに協力し合って温かな人間関係を形成しようとする態度を養う。

3. 題材の評価規準

知識・技能	・いじめについて、相手の人権を侵害していることを理解している。 ・話し合いを通して、自己の適切な行動について理解している。
思考・判断・表現	・いじめについての問題意識をもち、いじめの原因やよりよい人間関係の形成をするための解決方法について考え、実践しようとしている。
主体的に学習に取り組む態度	・いじめについて、解決に向けた話し合いを通して、主体的に課題解決に取り組み、よりよい人間関係の形成を図ろうとしている。

4. 題材設定の理由

(1) 題材について

本題材は、学習指導要領 特別活動 (2)イに示された「よりよい人間関係の形成」における題材である。また、群馬県いじめ防止基本方針における事項及び国立教育政策研究所「みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編)」(教師用指導資料)を参考とし、学級におけるいじめの未然防止をねらった学習である。特に、自他の相互理解や学級での話し合いを基にした意思決定を行い、自己の目標を、これまでの経験を踏まえて設定できるようにするものである。さらに、自己目標について、計画的に振り返りを行うことで、継続していじめ防止に取り組むことができると考え、本題材を設定した。

(2) 児童観について

(削除)

5. 人権教育との関わり

本校では、いじめの未然防止としての活動を多く行っている。その1つとして、いじめ防止基本方針の改定が挙げられる。いじめ防止基本方針の中では、児童一人ひとりの人権意識を高めるための取組として、自己肯定感や自己存在感が高まる活動及び他者理解に関する項目が盛り込まれている。

本時では、いじめに関するアンケートの実施や話し合い活動において、自分の意見を表現することで、自己肯定感や自己存在感が高まることを意図している。また、話し合い活動において、多面的・多角的な意見を出し合うことにより、他者の考えに触れるだけでなく、良い意見を自分の考えに照らし合わせて、更に考えを深める活動を行う。これにより、いじめの防止について、多様な考えがあることを理解するとともに、他者の意見を尊重するという人権意識の高まりについても授業を通して獲得していくことをねらいとしている。

6. 指導と評価の計画

過程	日時	主な活動	目指す児童の姿 (観点)〈評価方法〉
事前	12/1	<ul style="list-style-type: none"> いじめに関する実態調査のアンケートを実施する。(あ) いじめに関するニュースを紹介し、いじめを受けた人の思いに触れる。 いじめに関するクイズを実施し、日頃の自分の行動や言動について振り返らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめに関する授業への見通しをもち、アンケートへの回答やニュースの事例、いじめに関するクイズを通して、意欲的に取り組もうとしている。 (主) 〈アンケート・ワークシートの振り返り〉
本時	12/8	<ul style="list-style-type: none"> いじめに関する実態調査のアンケート結果を共有する。 いじめをなくすためには、どうしたらいいか考え(い)、これからの自分の生活で意識する目標を作る。 	※展開参照
事後	12/15	<ul style="list-style-type: none"> 本時で決めた目標について振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 計画的にワークシートに振り返りを行い、自己の取組を客観的に把握し、今後の生活に生かすことができる。 (知) 〈観察・ワークシート〉
	随時	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートに自分の目標の振り返りを記入する。 	

* 活用する学習支援ソフト等：(あ) Google Forms (い) Jamboard

7. 本時の学習

(1) ねらい

いじめ問題に課題意識をもち、悪口や冷やかし、からかいの原因やしてもらって嬉しい言動について話し合うことを通して、いじめを未然に防ぐために、学校生活における自分の目標を自己決定できるようにする。

(2) 準備

タブレット端末、電子黒板、事前アンケートの結果、ワークシート、Jamboard


(3) 人権教育の視点

○判断力：いじめに対して、客観的に見て正しく判断することができる。

○実践力：友だちの良いところを認め合い、協力したり助け合ったりしながら、いじめについての課題を解決していくことができる。

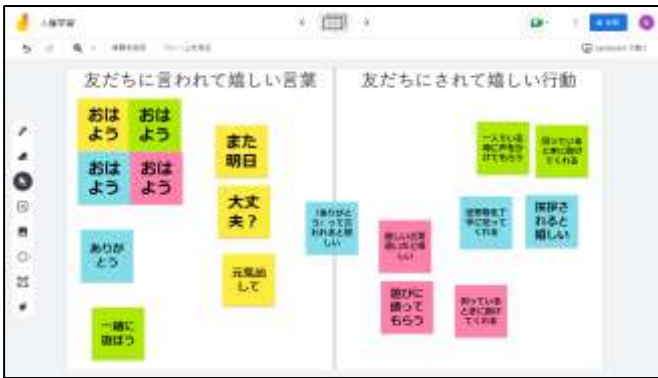
(4) 展開

【★ICT活用に関する事項】

<p>主な活動 予想される児童の反応〔S〕</p>	<p>○指導上の留意点 ◆目指す児童の姿（観点）</p>
<p>1 学級目標を再確認し、事前アンケートの結果を踏まえて、学級の実態を把握し、本時のめあてを明確にする。(5分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><めあて> みんなが気持ちよく、安心して生活できるクラスにするための自分の目標を決めよう。</p> </div> <p>S：いじめをしたことがある人はいないな。 S：いじめをしたことがある人はいないのに、「悪口、冷やかし、からかいをされたことがある」と答えている人がいるぞ。</p>	<p>○アンケート結果をグラフにして提示することで、本時に学習することの意義に気付き、自分の課題を明確にできるようにする。 【★提示・配付】</p> <p>○アンケートの結果については、児童の話合いの視点を絞るために、全ての情報を提示するのではなく、「いじめをしたことがある」「悪口・冷やかし・からかいをされたことがある」の設問の結果のみを提示し、その他については、口頭で補足を行う。</p>
<p>2 「友だちのことを からかったり、あだ名で呼んだりしてしまう」理由について考える。(10分)</p> <p>S：自分が嫌なことをされたからだと思う。 S：大好きな友だちを他の人に取られたくないからだと思う。 S：からかいをしても友だちが許してくれると思っているからだと思う。</p> 	<p>○様々な意見や考え方に触れることができるように、班ごとの Jamboard 上に個人の意見を付箋紙に書く。 【★協働編集】</p> <p>○意見がなかなか出せない児童については、想像したことや友達の話を書いてイメージしたことを書いてもよいことを伝える。</p> <p>○一人一人の意見を大切にするために、同じ意見が出てきたときは、付箋紙を重ね、友だちが出した付箋紙を消すことがないように注意させる。</p> <p>○多くの班の考え方に触れることができるよう、班活動の後に共有する時間をとり、多様な考えを受け入れることができるようにする。 【★一覧表示】</p>

3 いじめをなくすために、言われて嬉しい言葉やしてもらって嬉しい行動を考える。(15分)

S: 朝の挨拶「おはよう」。
 S: 困っているときに「大丈夫?」と言う。
 S: お互いに「ありがとう」をたくさん言う。
 S: 共通の趣味の話がされると嬉しい。
 S: 優しい言葉遣いをされると嬉しい。



○様々な意見や考え方に触れることができるように、班ごとの Jamboard 上に個人の意見を付箋紙に書く。
【★協働編集】

○今後の自分の目標を考える際の参考となるように、できるだけ具体的に記述するように声掛けを行う。

○なかなか意見が出せない児童については、友だちからされて嬉しかったことを想起するように助言を行う。

○班ごとにたくさんの意見を出すことができるように、様々な言葉がけや行動について考えるよう問いかける。

○多くの班の意見に触れることができるよう、班で話し合い活動を行った後に、学級で意見を共有する。
【★一覧表示】

4 いじめを未然に防ぐために、学校生活における自分の目標を決める(15分)

S: 今後は、友だちの嬉しくなる言葉「おはよう」「ありがとう」をたくさん使って話をするようにする。
 S: 困っている人や元気のない人に「どうしたの、大丈夫?」と声をかけるようにする。
 S: 言われて嬉しい言葉遣いや行動が喜ばれるから、毎日言われて嬉しい言葉遣いと行動をする。
 S: みんなに毎日元気よく挨拶をする。
 S: 相手の気持ちを考えて行動する。
 S: 一人である友だちを休み時間の遊びに誘う。

○いじめの未然防止の目標をつくることの必要感をもたせるために、授業冒頭で使用したアンケートの結果や学級目標の願い等を振り返る。

◆目指す児童の姿(思)
 話し合い活動や自己目標、振り返りの記述内容から、「いじめをなくすためには、どうしたらよいか」について、具体的な取組方法について考えることができているかを評価する。

○自分が実現可能な目標を具体的に作るために、「言われて嬉しい言葉や行動を考える場面」で出た意見を参考にしても良いことを伝える。

○自分の目標を具体的に決めるにあたり、様々な意見をもとにして考えることができるように、タブレット端末やワークシートを見返してよいことを伝える。

○事後指導も含めた継続的な指導を行うために、自分の目標をワークシートに書かせ、本時の振り返りを行う。

<振り返り>
 S: 私は、友だちに「悪口、冷やかし、からかい」をしていることはないと思っていました。でも、もしかすると知らないで友だちを傷つけたり、いやな気持ちにさせてしまったりしているかもしれないことを知りました。なので、今日の授業で作った自分の目標を「友だちに優しい丁寧な言葉づかいをすること」としたので、毎日気をつけて生活していきます。

8. 板書計画

12月8日 学級活動

アンケートの結果

円グラフ①
いじめをしたことがあるか

円グラフ②
悪口を言われたことがあるか等

めあて

みんなが気持ちよく、安心して生活できるクラスにするための自分の目標を決めよう。

活動内容

- | | |
|--|---------------------------|
| ① 「悪口、冷やかし、からかい」
をしてしまう理由について
考えよう | ③ いじめ防止に向けた自分の
目標を決めよう |
| ② いじめをなくすために、言わ
れて嬉しい言葉やされて嬉
しい行動を考えよう | ④ 振り返り |